

2024 年度

ともに世界に意味を創り出す教育をデザインする —「記録」の意味を再構築する—



研究の目的

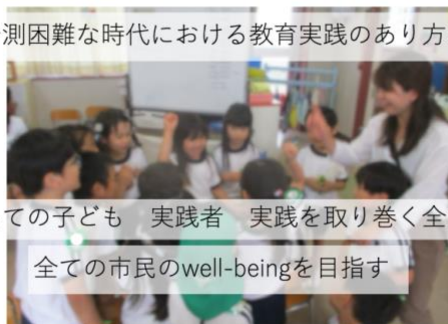
- 1 | 実践において自らが何をどのように選択しているのか、そのことについて語り合い、背景にある実践論理を自らの言葉で言語化することでいかに実践者の専門性を高めていくのかについて、自らの実践から探究する。
- 2 | 保育実践と取り巻く営みの一つとしてある「記録」について、言説としての意義や価値ではなく、自らの実践から問い直してく。
何のために「記録」を書き、その「記録」は何をもたらすのかを探索的に検討する。

方法

- 1 | 「記録」を巡り、省察的思考を土台とした対話を行う。
これまでの「記録」、および「ともにあること」の実質化に向けた実践における「記録」についてその意味を実践から立ち上げる。
- 2 | 変容として捉えるのではなく、一つひとつの実践における意味を捉え直し、自分自身にとっての「記録」のあり方を再構築していく。

背景

複雑で予測困難な時代における教育実践のあり方の再考



主体としての子ども 実践者 実践を取り巻く全ての人

全ての市民のwell-beingを目指す

「ともにある」保育実践への転換

課題山積に見える現実

できていない から できるようにする
わからない から わかるようにする

常に「解決」だけを求めているだろうか？

実践から多様な意味と価値を見出していく実践へ

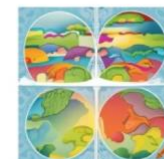
わたしたちは どうありたいのか？



「ともに世界に意味を創り出す」実践へ



課題解決をすること
垂直型



私たちはどうありたいのか
水平型

「よりよく」を目指すこと だけではなく
多様な意味と価値を今ここで創り出していく実践

保育を「記録」すること

[illegible][illegible]

時間	6月26日 一日の流れ
8:45	登園 食仕度
9:10	あそびの時間
9:30	自己選択活動 保育室での遊び 戸外での遊び
10:30	片付け お茶休憩
10:50	学級全体活動
11:10	降園準備

➡ 何のために「記録」をかくのだろうか？

「記録」は何をもたらしているのか？

「記録」の意味を再構築することで
「ともにある」実践のありようを捉えていく



「記録」の意味を再構築することで
「ともにある」実践のありようを捉えていく



なにが豊かになるのか...

実践の見方

記録

私のかまえ
関わり

保育実践

「ともにある」の捉え

根幹にある思想
の捉え

教師とし

記録

保育实践

「ともにある」の捉え

根幹にある思想
の捉え

記録と対話と実践の循環

保育観

対話

他者

対話

他者

自分

他者の言葉

子どもの姿

記録

自分

他者の言葉

子どもの姿

記録

自分

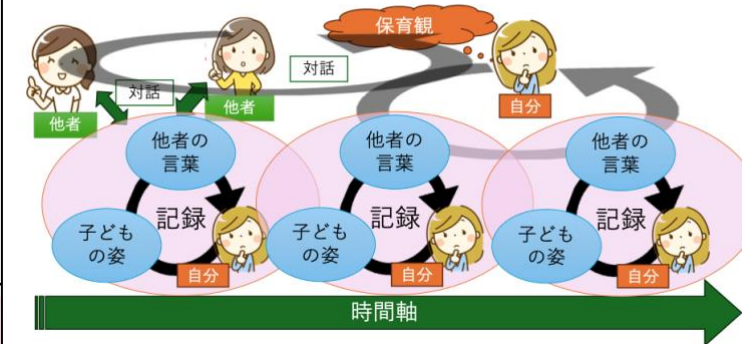
他者の言葉

子どもの姿

記録

自分

時間軸



教師としての「わたし」を支える記録

記録

次の保育計画への活用

当事者としての主体化

現象の理解

保育の「評価」

信念の確信

実践理論の生成

子どもの理解

自己の治癒

義務

思考の客体化

自らの行為の客体化

子どもの学びに還っていく

当事者としての主体化

当事者としての主体化

実践理論の生成

自己の治癒

子どもの学びに還っていく